



展示▶名古屋芸術大学 美術領域 工芸コース  
デザイン領域 メタル&ジュエリーデザインコース

白鳥庭園と名古屋芸術大学 工芸コース・メタル&ジュエリーデザイン  
コースとの協働企画『カンショウする楽園』展を開催いたします。  
名古屋芸術大学 両コース総勢 28 名の学生・卒業生による、  
白鳥庭園からインスピレーションを受けた、陶、金属を用いた作品を、  
園内各所にて展覧いたします。

自然豊かな庭園に点在する作品を探しながら巡ると、庭園と作品が調和する、  
ハッとする新しい風景に出会う、自然と芸術に思いを巡らす展覧会です。  
この展覧会では、庭園と作品群が干渉しあい、それぞれを緩衝する要素となって、  
互いを引き立てることになるでしょう。また、それらを鑑賞する人々は  
その風景に触れて、新しい出会いに気持ちが高揚したり、時に昔を懐かしみ  
感傷的になることもあるでしょう。  
美術／工芸による作品群と庭園を巡って、人間と自然が一体化する空間、  
まさに「楽園」となることを目指します。

## ■屋外展示

期間▶9/15(火)～10/25(日)

鑑賞時間は開園時間に準じます。  
※夜間は見られない作品があります。

## ■清羽亭展示

期間▶9/19(土)～27(日)

時間▶9:30～16:00  
(夜間開園時は 21:00 まで)

# 白鳥庭園プロジェクト カンショウする 楽園

## 「鑑賞ゲリラ」 アートツアー 9/26(土)・27(日)

日本庭園や茶室を舞台に、  
展示作品を対話型鑑賞で味わうアートツアーです。  
作家のみなさんのお話を直接伺いながら、  
作品や空間の魅力をより深く体感できます。

※各回、参加する作家が異なります。  
決まり次第HPでお知らせいたします。

◎時 間 各日 ①14:00～／②16:00～  
各回約1時間

◎集合場所 芝生広場前(開始時間までにお越しください)

※参加無料、事前予約不要

※虫除けの持参をおすすめします。

※鑑賞ゲリラは、対話型鑑賞でアート作品の  
豊かな鑑賞体験をサポートする  
ファシリテーターのグループです。



「鑑賞ゲリラ」公式サイト

## ■参加作家紹介 (☆)の作家の画像は参考作品です。

### 秋吉真太郎

今回は白鳥庭園に展示することを前提に、日本の  
伝統美と現代性を融合させた作品を制作したいと  
考えています。浮世絵から構図や線、モチーフを  
抽出・再構成し、無機質  
で工業的な印象を取り入  
れたインダストリアルな  
表現へと展開します。庭  
園という和の空間との対  
比を意識しながら、新た  
な日本美の在り方を提案  
する作品を目指します。



### 池田考作 (☆)

あるタイミングで気付くこと、ずっとあったのに  
突然現れたように映ること。生活の中で訪れる  
「あっ」というタイミング。その時に見えた(見え  
た気がした)何か、今と  
まだ”そして”まだ”の  
先にある可能性、すなわ  
ち固定化させないことで  
探る、またいくつもの断  
片との接続と関連性を可  
視化する試みである。



### 伊藤幸永

とにかく沢山叩いて  
作った作品です。  
表面のぼこぼここと  
とした質感と、少し  
気の抜けたような  
表情が見どころで  
す。この作品を見  
てほっこり癒され  
てください。



### 伊藤蒼一郎

白鳥庭園での思いがけず出会った青色をモチーフ  
に作品を制作した。展示場所を探して庭園を歩く  
中で、ふと目を奪われる景色に何度も巡り合った。  
その偶然の出会いには、まる  
で誰にも見つけられていな  
い自分だけの風景のように  
感じられた。見る人にも自  
分だけの「邂逅」を感じて  
もらえたら幸いである。



### 蒲菜々実

本体を鍍金で仕上げ、  
鱗を1枚1枚滑接して  
つけた。鱗の口部分を  
丸構にし、ヒレのディ  
テールなど細部にもこ  
だわった。



### 川越伶菜

白鳥庭園の「出会い橋」をきっかけに寄り添う  
二羽の白鳥をイメージし、向かい合った首が  
ハートを描く瞬間を表現しました。丸みのある  
胴体や羽で柔らかな  
雰囲気を出し、首はしな  
やかな曲線を意識して  
います。首と頭の制作で  
は、一つずつ繋げるので  
はなく二つのパーツを  
組み合わせる構造とす  
ることで理想的形に  
仕上げました。



### 川嶋野唯 (☆)

解像度をテーマに、  
つぶの集合体を用  
いた作品を制作し  
てくれる感覚があっ  
た。同じモチ  
ーフでも、つぶ  
の大きさを変える  
ことで見え方や印  
象が可視化すること  
に難目し、情報量  
や視覚的な違いに  
より解像度の違い  
を表現しています。



### 近藤愛子

水の流れ、時の流れを感じさせるこの庭園で「未来」  
をテーマに制作を進めました。クラグは約5億年前  
から姿を大きく変えず生き続けている生命力のある  
生物であり、未来の海  
でも生き残る存在だと考  
えています。鉄板で機械  
的な質感を表現し、生命  
感と無機質さが共存する  
未来のクラグを制作しま  
した。



### XING RUILIN

金属の線材だけで植物  
を表現した作品です。  
枯が自然に広がる姿を  
観察し、線の重なりや  
空間の抜けを意識して  
制作しました。素材の  
硬さと植物の生命感を  
対比させ、見る角度に  
よって異なる表情が生  
まれることを目指しま  
した。



### 坂口 蓮

一本の羽をイメージ  
した全長約3.5メー  
トルの金属作品です。  
流れるような有機的  
な形を意識し、光や  
見る角度によって印  
象が変わるよう工夫  
しました。



### 澤木亮壮

耳で音を聴いて目で物を見て体で空気をを感じる。  
それらの要素が私にここに居ると存在の証明をし  
てくれる感覚があった。この場に居る「人」とこ  
の場に居る「生き物」  
とこの場で起きる「  
出来事」と。この瞬間  
でしか起こり得ない。  
次に来た時は「出会う  
ない」だろう。たまた  
まこの場に集まり留ま  
っている。



### 篠宮徹之輔

白鳥庭園に展示する  
ということで日本庭園  
らしく松の重なりをモ  
チーフに作品を作りま  
した。盆栽のような流  
線的な形状にすること  
により庭園内の松との  
差別化を図りました。



### 朱成峰

私が伝えたいのは、人間は常に理想と現実の間を  
模索しながら進み続け、まるで星の光が方向を示  
すかのように、決して完全には到達できないとい  
うことだ。私たちは合理性  
と矛盾、秩序と混沌、破壊  
と再構築の間で絶えず自己  
を形作り、生命はまさにこ  
の持続的な生成の過程にお  
いて意味を得るのである。



### XU KEXIN

白鳥庭園で見た水面に架かる小さな橋が印象に  
残った。橋は既知と未知、こちら側と向こう側を  
つなぐ存在である。本作では、陶を用いて心の平  
衡の「橋」を表現した。  
水中から伸びる曲がり  
くねった橋は、歩いて  
渡ることも、水を泳い  
で越えることもできる。  
見る人それぞれが自由  
に意味を見出してしま  
い。



### 杉山仁彦 (☆)

ブリキ缶を用いた日常的な陶器制作から、福島県  
棚田村での自立した産業を見学した活動、三重県  
伊賀市でのアートスペースのディレクションを行  
うなど、陶芸を軸とした  
ミクロとマクロの実践を  
横断し、自分たちの手で  
「心地よい日々」を立ち  
上げ、生活そのものを再  
制作することで、生きて  
いる実感の獲得を試みて  
いる。



### 竹田歩里

普段より、自身の自然  
体験や日常生活から要  
素を汲み取りながら陶  
を主要材とした制作を  
行なっています。日々  
移り変わる庭園の景色  
の中で、固定された造  
形の中にいるかたの  
緊張感と生命的な佇ま  
いを感じとることに  
励んでいます。



### つついそうた

おもに球体や薄いつま  
みを作っています。薄さ  
に魅力を感じており、  
土の特性や表情を大切  
にして作品作りをして  
います！



### 服部綾乃 (☆)

白鳥庭園は中部地方  
の風景をモチーフに  
した庭園ということ  
なので、築山として  
再現されている御蔵  
山に生息するライチ  
コウを作品のモチー  
フにしました。



### 林匡哉

非常に大きな鯉が今  
にも躍りて昇華して  
いくような佇まいで  
鯉はゆらゆらと揺れ  
迫力があり、見てい  
て飽きることのない  
作品を作るよう尽力  
しました。是非、こ  
ゆるりとご鑑賞くだ  
さい。



### 原陽菜 (☆)

この作品はサボテンと  
丸を組み合わせて制  
作しました。サボテン  
を360度どこからみ  
ても見えるようにし、  
中の部分を見て作品  
に入り込めるように内  
側にもサボテンを配置。  
葉は3色使用して、た  
だサボテンの緑色だけ  
でまとめないように意  
識しました。



### 松浦友紀 (☆)

最近「かわいいい」を  
テーマに魔法のステッ  
キを制作しています。  
今回の展覧会では水の  
青色や空気が着想を  
得て、水をモチーフに  
庭園の風景に寄り添う  
新作を展示予定です。  
手にしたくなるような  
ときめきと笑顔を届け  
る作品を目指します。



### 馬淵陽平

白鳥庭園が木曽川流  
域の自然を表現して  
いることから、その  
水辺に生息するサワ  
ガニをモチーフに制  
作しました。硬い殻  
で生命の力強さと繊  
細さを表現し、自然  
と人とのつながりを  
感じられる作品を目  
指しました。



### 宮池莉菜 (☆)

水の流れを見ていると、それらが規則的に流れて  
いることに気が付く。それは地面の石や植物に影  
響を受けて屈折したり、当たっている光によって  
そうになっているように見  
えていくのだけれど、  
その規則性、めぐ  
るといふこと、規則に倣  
ってめぐっているという  
こと、一つ、メリーゴー  
ラウンドとローピーカッ  
プを思い出す。



### 森本愛

清羽亭の枯山水からイ  
ンスピレーションを得  
て、鶴をモチーフとし  
た作品を制作しました。  
一羽の鶴が強い風を  
破り、外の世界へと飛  
び立っていく様子を表  
現しています。折り鶴  
の通かみど、力強さを  
感じていただけたら嬉  
しいです。



### 山田湧大

この作品では、鉄の棒を線として捉え、コオロギ  
のフォルムを空間的に構成しました。面ではなく  
線で表現することで、見る人が頭の中で形を補充  
し、生き物としての存在感  
を感じられるようにしてい  
ます。また、鉄の持つ無情  
で力強い質感と、昆虫の繊  
細な造形との対比を意識し、  
生命感や運動感を表現しま  
した。



### YOU YUXIN(☆)

土の質感や火の跡、  
釉薬の偶然が生み出  
す表情を追求してい  
ます。素材そのもの  
が持つ力強さと、自然  
光の中で現れる静  
かな佇まいを大切に  
制作しています。



### 楊皓博

東アジアで昔からよ  
く見られる伝統的な  
モチーフです。制作  
では、昔からあるモ  
チーフをそのまま再  
現するのではなく、  
形や表現に変化を加  
え、伝統的な要素と  
現代的な雰囲気を組み  
合わせた作品です。



### 横井耀葉

柔らかな中にある、  
透けるような優美さや機  
織さに美しさを感じ、  
その印象を形にした。  
完璧さではなく、不完  
全さを含んだ美しさを、  
蓮と足をモチーフに鉄  
で表現している。

